

# 郷土かみのかわの歴史・文化財

## 人物から見た上三川の歴史 多功宗朝

鎌倉から戦国時代の上三川町一帯は、宇都宮氏にとつて南の重要な戦略拠点でした。

このことから、宇都宮氏は1248(宝治2)年に、現在の明治南小学校西側一帯に築いたのが多功城で、翌年には上三川城が築かれました。この二つの城は、上三川城が東上条と呼ばれる地域の中心、

多功城が西上条と呼ばれる地域の中心で、城主には宇都宮氏一族が就任しましたが、多功城主となったのが、多功(宇都宮)宗朝でした。

宗朝の父は宇都宮家五代当主の頼綱(1172-1259)で、母は、鎌倉幕府初代執権の北条時政の娘で、初代上三川城主横田(宇都宮)頼業は異母兄弟、鎌倉幕府初代將軍源頼朝の妻である北条政子は伯母にあたり、宇都宮氏の生命線とも言うべき

多功城主という重責を担うには、申し分ない人物であることがわかります。宗朝は、多功城主となつてからは多功の地はもちろん、児山・大領・成田(以上、現：下野市)、築のあわせて1500町を支配し、

1292(正応5)年1月20日に亡くなりました。鎌倉時代の文献資料は非常に限られますが、宗朝は鎌倉幕府の有力御家人であつた宇都宮氏にあつて、その当主の子どもであつたことから、鎌倉に出仕していたため、鎌倉幕府の正史である「吾妻鏡」にも名前が見られます。宗朝の名前が初めて登場するのは、

1238(嘉禎4)年に行われた將軍藤原頼経の上洛です。当時18歳の若武者であつた宗朝が、公の舞台上に登場したのです。

この後も、行事の参列者や

警護者などの出仕者に宗朝を指す、「宇都宮五郎左衛門尉」「石見守」といった言葉が見られますが、一方で、1240(延応2)年3月には理由無く当番を休み、出仕停止の処分を受けたり、鹿食を厳しく禁じられていた鶴岡八幡宮の放生会の供奉人を命じられて

いたにもかかわらず、これを破つてしまい、結果として辞退するなど、豪放な面が見られます。しかし、このような性格は後の子孫たちに受け継がれたのか、代々武勇に優れ、戦国時代に多功氏は、小田原の北条氏の攻撃をたびたび防ぐなど、宇都宮氏の重臣として

は確固たる地位を保ち続けます。

鎌倉時代															西暦	年号	できごと			
1292	1282	1274	1272	1263	1261	1259	1258	1257	1256	1248	1247	1243	1241	1240	1238	1232	1221	1220	承久2	多功(宇都宮)宗朝、生まれる。
正応5	弘安5	文永11	文永9	弘長3	弘長元	正元元	正嘉2	正嘉元	建長8	宝治2	宝治元	寛元元	仁治2	延応2	嘉禎4	貞永元	承久3	承久2	承久2	承久の乱起きる。幕府軍が勝ち、幕府が公家政権全体の主導権を握る。
宗朝、死去。	宗朝の子朝定、分家し児山城を築く。	文永の役。蒙古・高麗軍、博多湾より上陸するも暴風雨により撤退。	二月騒動。執権北条時宗、兄時輔を滅ぼし、一族内部の敵対勢力を一掃。	宗朝、北条時頼邸における、境飯に参列する。	宗朝、鹿を食べたことにより放生会の供奉人を辞退する。	宗朝の父頼綱、京都において逝去する。	宗朝、北条時頼の境飯の儀に参仕する。	宗朝、將軍宗尊親王の鶴岡八幡宮放生会に供奉する。	宗朝、將軍宗尊親王の鶴岡八幡宮放生会出席に供奉する。	多功城が完成する。宗朝、多功城主となる。	宝治合戦。三浦泰村一族滅び、執権北条氏の独裁体制確立。	宗朝は上旬に属する。	幕府、將軍家臨時御出の際の供奉人結番の制を定める。宗朝は上旬に属する。	多功宗朝ら5人の出仕を停止する。	宗朝、將軍頼経の上洛に際し、六波羅新京に入る行列に随兵として従う。	幕府は理由なき当番欠勤者として、多功宗朝ら5人の出仕を停止する。	多功宗朝	多功宗朝	多功宗朝	幕府、最初の武家法典である御成敗式目制定。